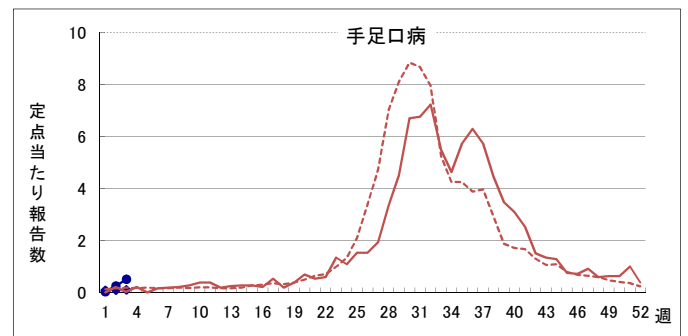
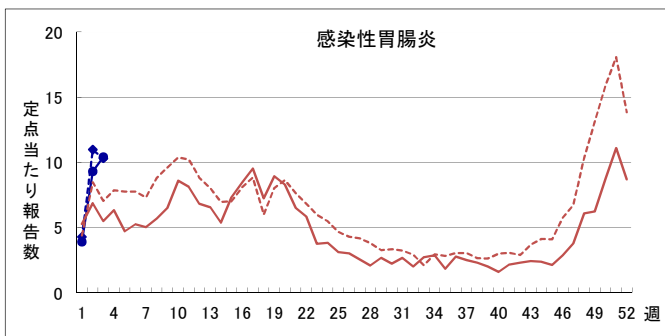
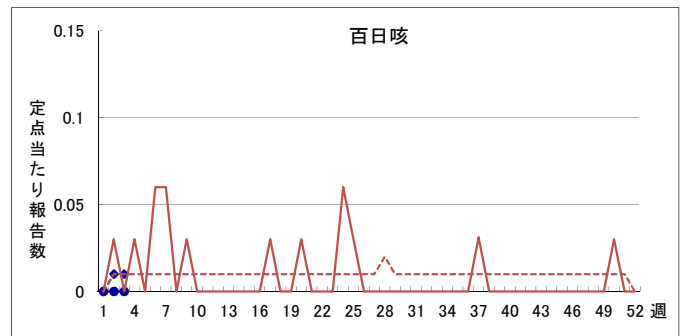
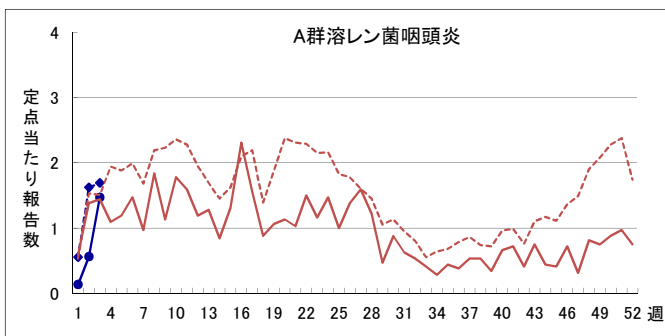
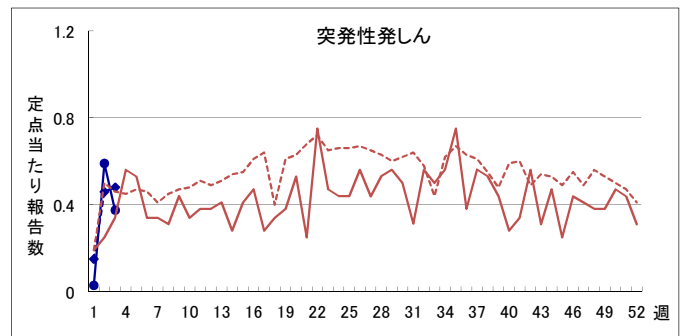
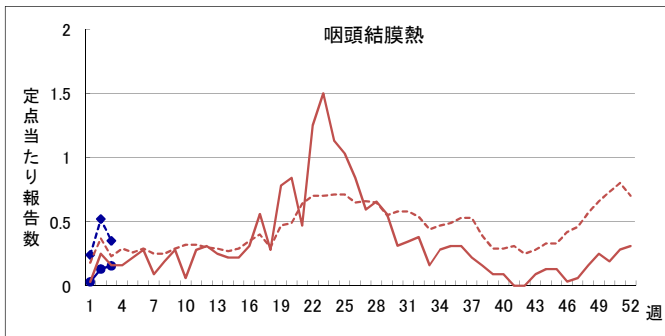
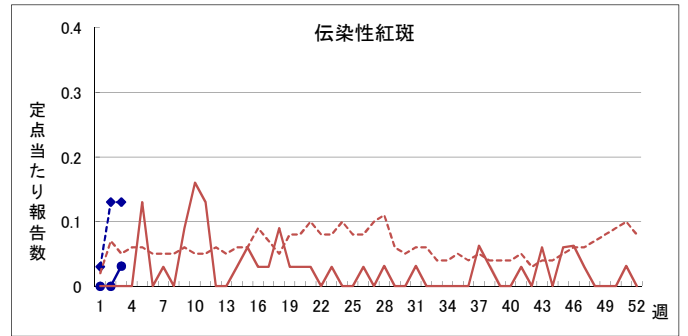
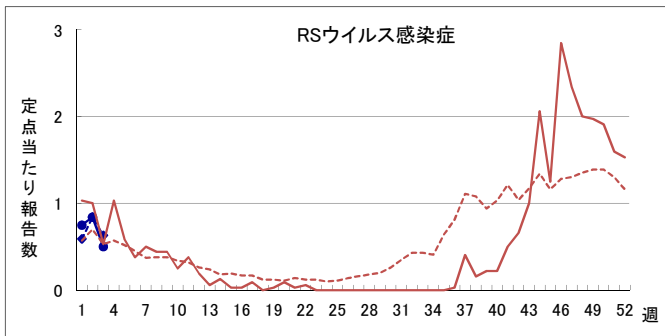
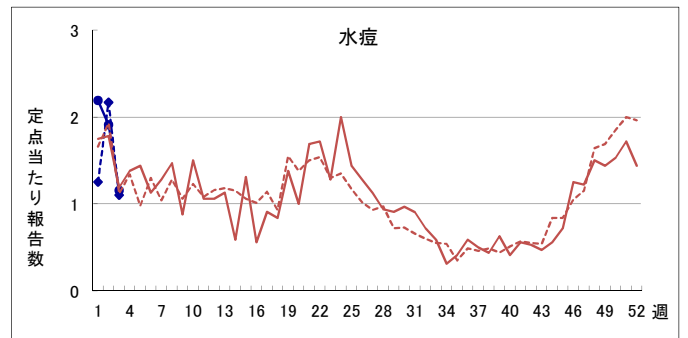
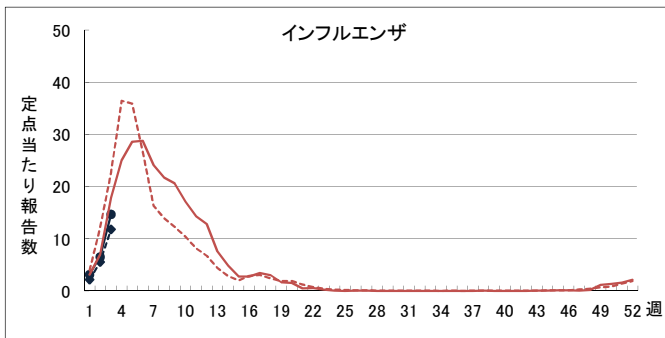


5-1. 疾病別定点当たり報告数 平成26年第3週

- - - 平成25年 全国 — 平成25年 滋賀県
- - - ◆ 平成26年 全国 — ● 平成26年 滋賀県



インフルエンザの発生動向

平成26年第3週

1. 県内全域にインフルエンザ注意報が発令されました。
2. 先週(定点当たり報告数;6.53)と比べて2倍以上に増加(14.66)しました。
3. 大津市(21.73)、草津(10.20)、甲賀(22.29)、東近江(12.63)および彦根(13.29)保健所管内で多く報告されています。
4. 第3週に報告された症例は20歳以上で多くの報告がありますが、20歳以下の全ての年齢層でも報告されています。
5. 第3週の滋賀県の定点当たり報告数は京都府(11.53)や大阪府(14.23)と比べて多い状態です。
6. 例年、患者報告は1~2月にピークを迎えていますので、報告数は今後も増加することが予想されます。

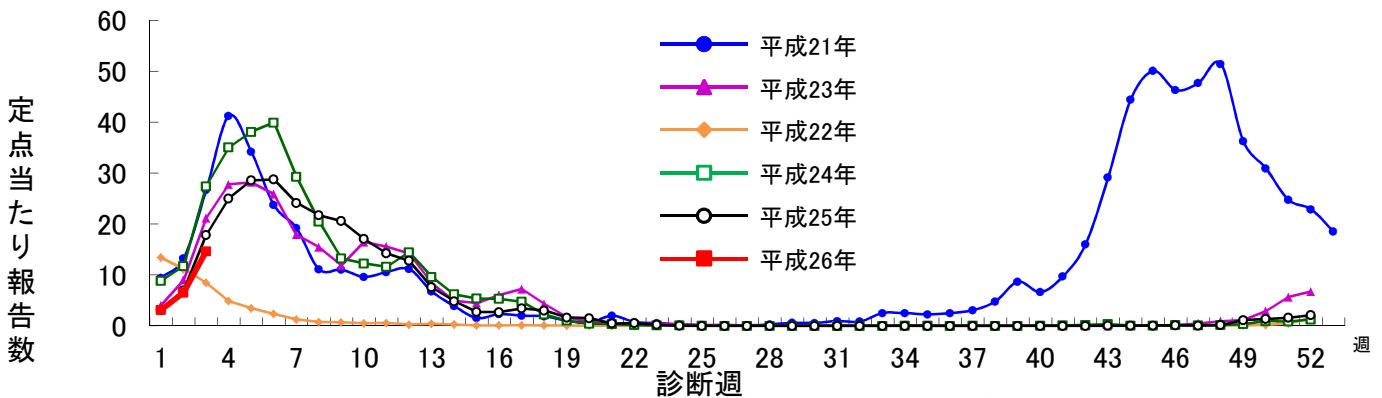


図1. 診断週別定点当たり報告数(平成21年第1週—平成26年第3週)

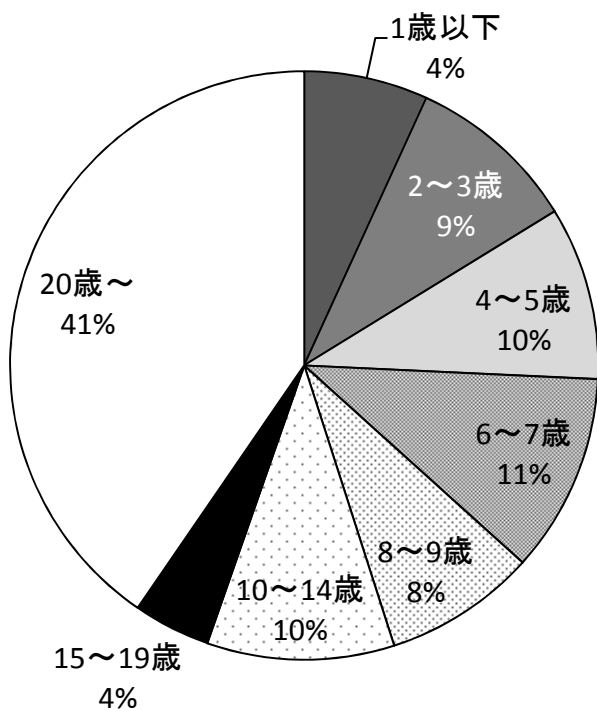


図2. 年齢割合
(平成26年第3週、n=777)

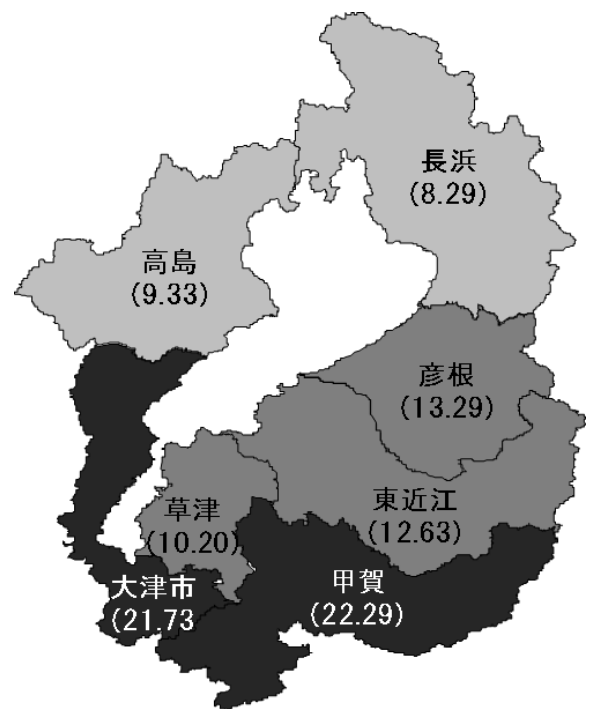


図3. 保健所別定点当たり報告数
(平成26年第3週)

感染性胃腸炎の発生動向 平成26年第3週

1. 滋賀県全体では定点当たり報告数が10.41です。過去5年間と同様の報告数です。
2. 甲賀(11.75)、彦根(12.25)、長浜(18.75)および高島(14.50)保健所管内で多く報告されています。
3. 過去5年においては、患者報告は12月にピークを迎えていますが、4月前後まで高いレベルで推移しています。

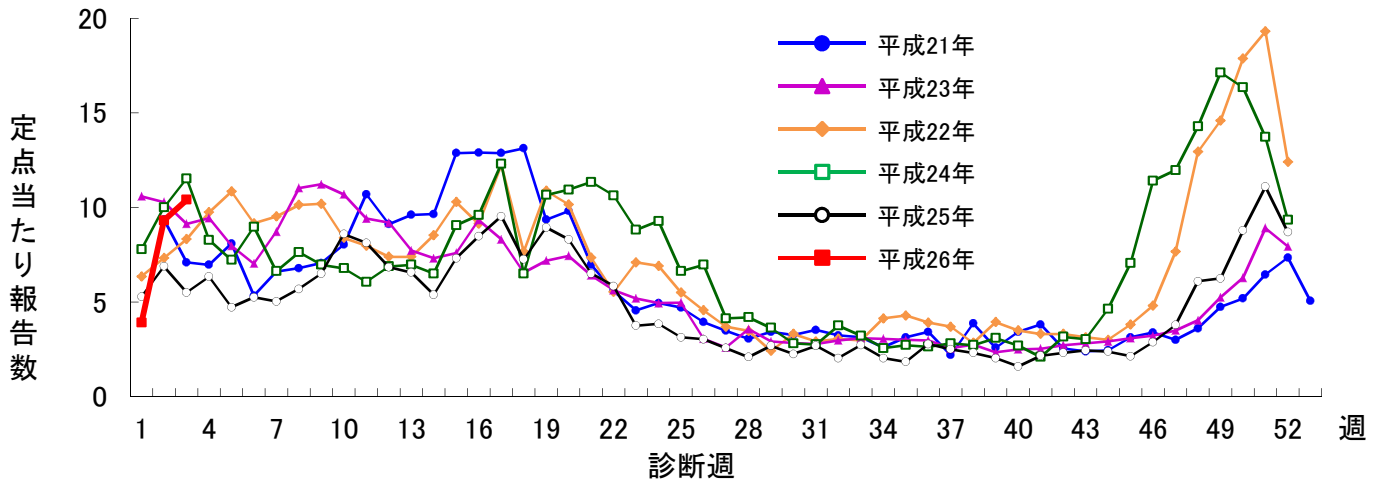


図1. 診断週別定点当たり報告数(平成21年第1週ー平成26年第3週)

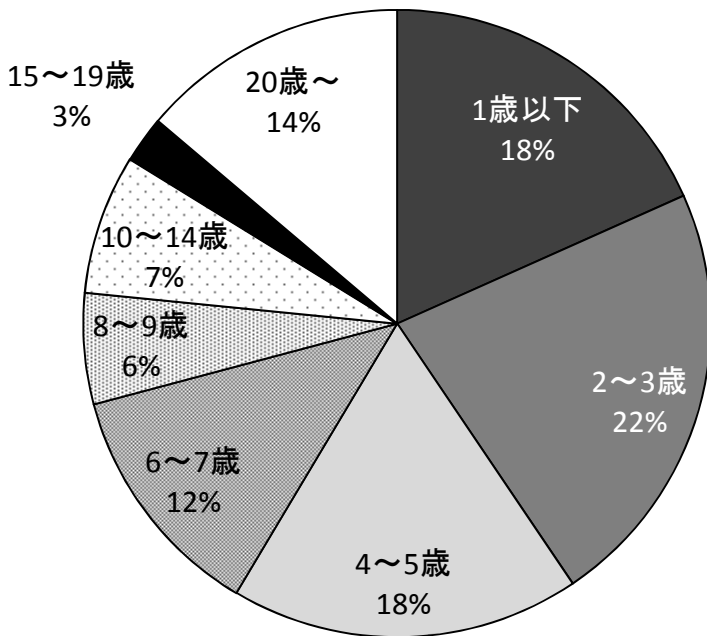


図2. 年齢割合
(平成26年第3週、n=333)

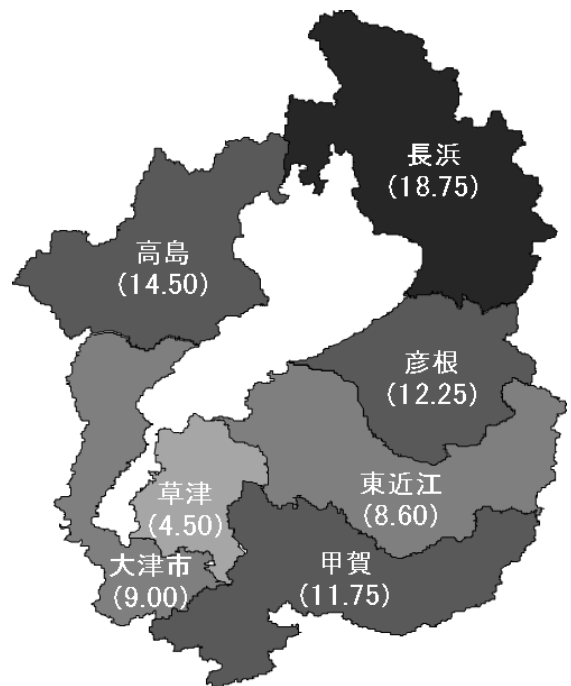


図3. 保健所別定点当たり報告数
(平成26年第3週)

1. 県内の小児科定点医療機関32か所より届出された感染性胃腸炎は患者の年齢分布は上記のとおりですが、本調査では小児科以外からは届出されないため、成人を含めた年齢分布は把握されておられません。
2. 冬季の感染性胃腸炎の原因の多くは、感染症発生動向調査の病原体サーベイランス等の過去の調査によって、ノロウイルスであると推定されています。